

ともしび

第400号

H. 27. 12. 1
発行所 曹洞宗総合
研究センター研修
部門・一般コース

拝む心

先日へなご成画の機方志功ごんは、津
の入口、まだ少年だったに、絵が得意で、こ
出掛け、夢中になってしまわれました。油絵と
父です。

あの合浦公園の一角に油絵をすえて、機方
ごんは、口々に見える東岳をにらんで、
た、それからおぼろげなうして絵筆を走
のロックコードを適用して、古手の黒のドス
が描き進みしに、絵筆をタオル
へて別の色と塗り、そのうちに、絵筆
へのドスも黒く、ドスインのフロ
「ドスイン」が描き進みしに、絵筆の

です。それ同タオルよりもドスインの方が
絵具をぬぐうのに良いからであり、しかも
と景色に没頭してしまつて夢中になってい
からです。見ていた回りの人も、公園も春
にまげたことだった。いやおぼろげにの
それだけで同ない。絵が出来上がるまで
口々に志功ごんは、遠くにかすんだ風
景に向つて、筆を合わせて拝んだのです。志
功ごん自身も、後にこう言っています。

「ぼくは合浦公園でよく写生しました。そ
して描き終わると、写しとありがどうもいま
ごみたにいなむのだらうです。景色がすべて
だからです。そうしてみると、拝むといふこ
とは、大切なもの、幸いものだから拝むので
す。そして次に、そういう幸いもの前には
自分を見つめ、素直になれぬから拝むの
のです。そういうことを、念聖解脱、とい
ふと自分知らぬうちに幸いに心に出合つて

記念すべき「ともしび」創刊号！

月に一度、皆さまへお届けする「ともしび」も、
今月で第四〇〇号を迎えました。

ともしび法話会の先輩方が代々受け継いでこら
れた伝統ともいえる「ともしび」は、昭和五十年に
第一号が刊行されてから四十年が経ちました。

今でこそ、パソコンで写真や文章も自由自在に
編集できます。しかし、昔はすべて手書きのつえ、
絵を描いたり、雑誌の切り抜きを貼るなどの様々
な工夫を凝らしていました。少しでも皆さまに分
かりやすい誌面になるようにという先輩方の心意
気が見受けられます。

今回は、当時のともしび法話会メンバーの方
たちがどんな気持ちで「ともしび」の刊行を志したの
か。その心に思いをはせながら、この一面で創刊号
の誌面を復刻してみました。

四十年という長い間、ともしび法話会や機関誌
「ともしび」を続けてこられたのも、毎月ご覧にな
つてくださる皆さまがいるからこそです。

これからも、分かりやすく楽しい「ともしび」を
皆さまにお届けしていきたいと思っておりますので、ど
うぞお楽しみに！

〈江刺 亮専〉
えさし りやせん



私の好きな仏教語

誰たが家いえにか名月めいげつ清風せいふうなからん

今年はお月さまが普段より一段と大きく見える「スーパームーン」が話題になりました。

たしかあれは幼稚園の頃でしょうか。家から少し離れた公園で遊んでいた私は、友達と別れて家に帰る道中、夕暮れの空にぼんやり浮かぶ白い月を見つけました。

私が歩くと月も一緒について来ます。木々の上を通り、家々の屋根を越え、月は私の横について来る。嬉しくなつて駆け出した私は、家に飛び込むやいなや食事の支度をしている母を捉つかまえ報告したものでした。

「お母さん、お月さま連れてきたよ！」

早く見ろ見ると急せかす私に母は笑いかけ、「あら」とか、「まあ」とか言っておりました。

そんな幼い日の懐かしい思い出を振り返りつつ、今月の禅語をご紹介します。

「誰たが家いえにか名月めいげつ清風せいふうなからん」（月の明るい光や、清らかな風が届かない家があるだろうか。）

この言葉は『碧巖録へきがんろく』という昔の禅の本に紹介されています。

「月」は、仏教の世界では仏様の象徴として喩えられるものです。したがってこの禅語も、「どんな家にも等しく月の光が射すように、誰の心の中にも仏様が宿っているのだよ」と解釈されます。

「仏の心（仏心）」という言葉をも、手元の仏教辞典で引いてみますと、「仏の大慈悲の心」とあります。「慈悲」とは「思いやり」のことですが、仏様の思いやりには、さらにその上に「大」の字が冠されています。では一体、「仏様の心」＝「大きな思いやり」とはどのようなものでしょうか。

先日、近所の川で夜風に当たって月を眺めていた時のことです。どういうわけか、これまでお世話になった方たちの顔が次々に思い浮かんできました。

「あの人たちも今頃こうして同じ月を見ているかもしれないなあ」。そんな思いを巡らせながら、なるほど、「仏様の思いやり」というものは、このように遠く離れた人の事まで思いやれる感性のことをいうのではないだろうかと考えました。

自分の答えに納得して、月から視線を外した時です。視界に入る周りの草むらや、向こうの橋げた。流れる川面。全てぼんやりと月の光を受けて光っていました。私はその様子を見て、はたと気が付きました。

もしかすると、「仏様の思いやり」とは、「誰か」ということすら通り越して、「誰でも分け隔てなく思いやる」ことなのかもしれません。

それにしても、月の光のように、どんな人でも分け隔てなく思いやれる心をあなたも持っているのだと言われたら、皆さんはどう感じるでしょう？

私はと申しますと、正直な所あんまり自信がありません。特にこの頃は、年末の忙しさのためか、心がそわそわ、もやもやして、つつい周りの人への気遣いを忘れてしまい、後で反省する毎日です。

月の光というのは空が曇っている日には見えないものです。きっと最近の私の心の空模様は「曇り、ときどき晴れ」といった所なのかもしれませんね。

皆さんの月はちゃんと輝いていますか？ 〈佐田 陸道〉

おぼろ
散歩

第八回 芝公園



芝公園と東京タワー

今月のおぼろ散歩は、東京都港区にある「芝公園」です。私が普段からよく使っている地下鉄、都営三田線の駅名にもなっています。

明治六年に上野、浅草、深川、飛鳥山と芝の五カ所が東京で初めての公園として指定されました。芝公園内には、もみじ谷と言われる人工の溪谷や東京都指定史跡の前方後円墳、丸山古墳などもあり見どころ満載です。

外の空気が、いつそう寒く感じられる十二月。それでも晴れた日は、お弁当を買ってこの都会の一角にある、緑豊かな公園でほっと一息。するとお弁当のお裾分けを貰おうと、人に慣れた鳩たちが目の前をチヨコチヨコ。

青空を背景に見上げると東京タワーは、とても綺麗で、思わず観光に来た気分を味あわせてくれます。お昼休みの時間も、気付けばあつという間に過ぎていきます。昼下がりの公園は私達に、つかの間のくつろぎを提供しているのです。

〈佐粧 博史〉
さしやう はくし

〒105-8544 東京都 港区 芝 2-5-2 曹洞宗宗務庁内
曹洞宗総合研究センター 教化研修部門 一般教化課程
ともしび法話会

TEL 03-3454-6844 FAX 03-3454-7180

2015(平成27)年 12月1日発行 第400号